

TAKE FREE

ご自由にお取りください

いのはなハーモニー

Harmony

千葉大学病院ニュース 人間の尊厳と医療の調和を目指して

2021.5 VOL.62



Fore Runner
チームノチカラ

目に見えない病原体と闘う ー感染症対策チーム(ICT)ー

特集

コロナ対応この1年の記録 経験をチカラに より頼れる病院へ



◎表紙の写真

放射線部 診療放射線技師
(詳細は裏表紙へ)



千葉大学病院
CHIBA UNIVERSITY HOSPITAL



漆原 節
(看護師)

山崎 伸吾
(薬剤師)

奥田 佳男
(看護師)

感染制御部 部長
猪狩 英俊 (医師)

谷口 俊文
(医師)

矢幅 美鈴
(医師)

村田 正太 (検査技師)

Fore Runner チームノチカラ

No.3 感染症対策チーム (ICT)

目に見えない 病原体と闘う

高度化・複雑化する医療環境の中で、目に見えない菌などの微生物から患者さんを守るため、院内を縦横無尽に動くICT。従来から院内の感染予防と対策の実働を担う感染制御部を軸に、医師5人、感染管理認定看護師を含む看護師4人、薬剤師3人、検査技師2人、事務2人、そして各部署で活躍するICTリンクスタッフで構成されています。病院長直轄のため、万が一感染リスクの高い事象が発生しても、迅速な情報収集と判断が可能であり、的確に対応しています。

Navigator

感染制御部 看護師長
千葉 均

新型コロナウイルスの感染拡大で大きな役割を果たしている感染症対策チーム (ICT : Infection Control Team) をご紹介します。



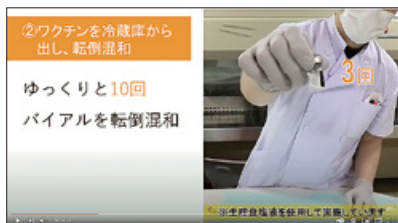
Pick Up! コロナ対応で活躍!



保健所からの連絡を受け、当院で受け入れが可能かどうか院内の情報を元に検討。



感染拡大に伴い、コロナ病棟を増やす際、看護師の防護具着脱トレーニングを実施。



医療者向けにワクチン希釈の手順を解説した動画などをYouTubeの公式チャンネルで配信。



ゾーニングを検討し、看護師がその指示に従い、コロナ病棟の準備をする。



感染対策の教育と啓発
全職員を対象に定期的な研修を実施し、感染対策のベースアップを図っている。



職員の感染対策の実施
針刺し・切創・体液ばく露の防止対策やワクチン接種を事務と連携して実施。



院内ラウンド(見回り)
ICTラウンドで部署の課題を指摘し、改善を図っている。その他に抗菌薬の適正使用や清掃のラウンドなど、目的に合わせたラウンドを週に数回実施している。



感染症の動向をモニタリング
日々の院内感染対策状況や感染発生動向を注意深く確認し、内容を精査・改善。環境整備に努めている。

ICTの主な活動

全職員で取り組む院内感染対策

感染症は、目に見えない細菌やウイルスといった病原体が、体内に入ることによって起こる病気です。すべての病原体が必ずしも感染症を引き起こすわけではありませんが、体力や抵抗力が低い人は、感染しにくい病原体でも発症する確率が高くなります。特に病院は、病気や手術などによって免疫力も抵抗力も低い人が集まる場所であり、他の施設と比べると感染が広まりやすい環境にあります。そうした院内感染リスクから身を守るため、患者さんやご家族、病院職員など、院内で過ごすすべての人が適切に感染対策を実践できるように、**感染症対策チーム(以下、ICT)**は活動しています。

また、県内の約6割の医療機関が参加する「千葉県院内感染対策地域支援ネットワーク(千葉ネット)」を組織しており、地域の感染症予防の支援も行っています。

感染症の専門知識を駆使して新型コロナにも対応!

この1年、ICTは感染症対策のプロフェッショナルとして、当院のコロナ対策本部の中核を担ってまいりました。コロナ患者さんの対応はもちろん、国や県、市など行政機関との連絡調整、多くの方に正しい感染予防対策を徹底して行っていたり、感染対策に関するポスターの制作・掲示や動画のWEB配信など、啓発活動も積極的に行っています。

自宅で感染者が出たら? 家庭内感染を防ぐ8つのポイント



症状がある人とは部屋を分ける



感染者の世話をする人を限定

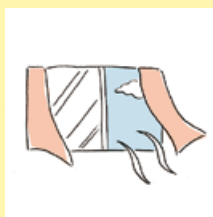


マスク着用



こまめに手洗い

大切なのは、「うつらない、うつさない」こと。
濃厚接触者や感染疑い者の場合も同じように対策を!



日中はできるだけ換気



手で触れる共用部分をこまめに消毒



汚れたリネン・衣服は分けて洗濯



ゴミはしっかり縛って捨てる



感染制御部 医師 山岸 一貴

コロナ対応
この1年の記録

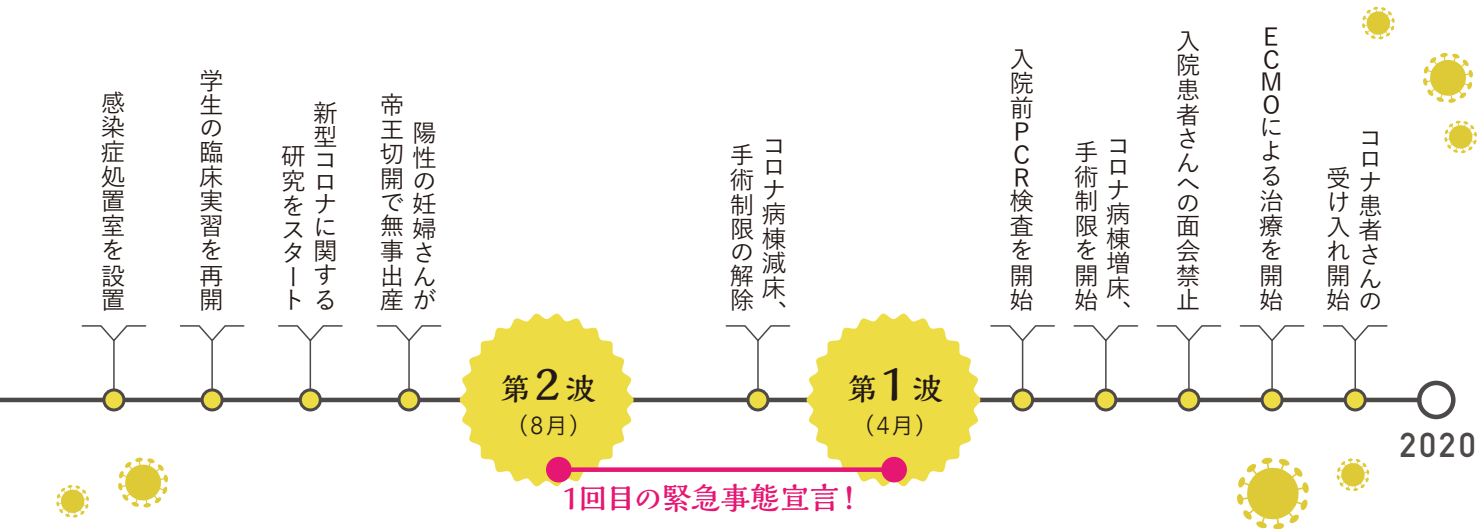
経験をチカラにより頼れる病院へ

通常診療の継続をあきらめず、 コロナ対応に奮闘した1年

新型コロナウイルス感染症は、第3波、第4波と、幾度も感染の波がやってきますが、当院では患者さんの数の増加に備え、国や千葉県からの要請により、ICUと2病棟（フロア）で合計60床を確保しています。

その影響を受けて、呼吸器内科をはじめとするいくつかの診療科では、病床数が抑制され、通常診療に支障をきたしています。これほどの長期化を想定していなかったため、限られた病床やマンパワーを「コロナ」と「コロナ以外」の診療にどう配分していくか、感染拡大の波が変化の中で非常に難しい病院運営が続いています。

今号では、実際にコロナの患者さんを担当している医師や看護師などの声とともにこの一年を振り返ります。患者さんにも入院調整など、多くのご協力をいただきながらの日々でした。1日も早く事態が好転することを願いながら、この経験をもちに、これからも患者さんの側に立った良質かつ適切な医療を提供するために、職員一同、力を合わせてまいります。



with COVID-19

コロナ患者さんに寄り添った365日

新型コロナウイルス感染症という新たな疾患に立ち向かい1年以上が経過しました。感染対策や自粛生活など自分たちも不安や疲労が続く中、病棟看護師は患者さんと真摯に向き合い、安心して療養生活を送ることができるよう努めています。私たちの合い言葉は「油断大敵」です。一人ひとりが責任ある行動を取ることで自分と相手を感染症から守ることができます。1日も早くマスクのない笑顔で患者さんと向き合える日がくるよう願っています。



新人を指導する3年目看護師

コロナ専用病棟担当
久田 真弓 師長



コロナ患者さんを受け入れて1年以上経ちます。当初は、見えない未知のウイルスに対して、竹やりで戦いを挑んでいるような気持ちでしたが、今では、いくつか有効だと思える薬や治療法も分かってきました。それでも、未だに不明な部分が多い感染症です。退院された元コロナ患者さんの中には、コロナウイルスに罹患する前とは、何らかの体調の変化がある方もいて、定期的に外来診療に来られる患者さんもいます。私たち医療者とともに、皆さんも、自分や大切な人を守るために、一緒に感染対策を継続して、このコロナの時代を乗り越えましょう。

コロナ診療チームリーダー
坂尾 誠一郎 准教授



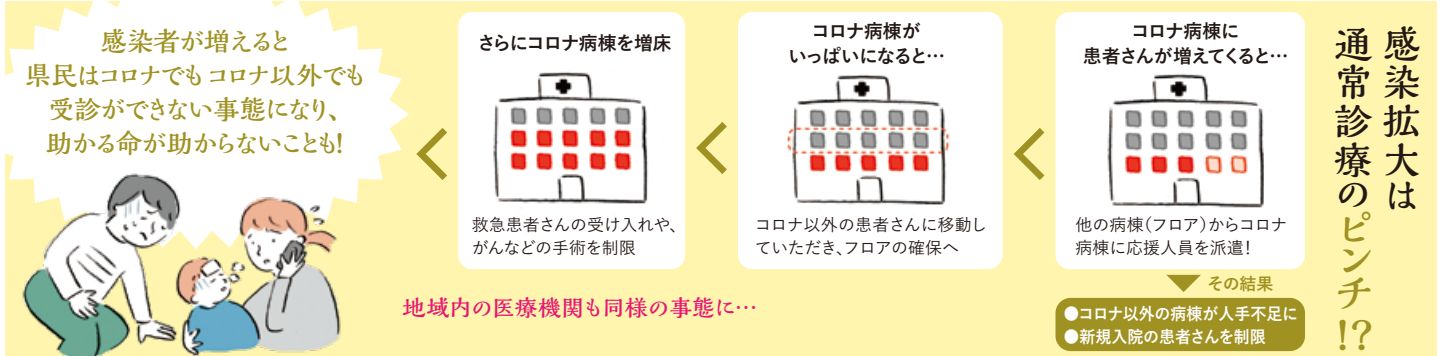
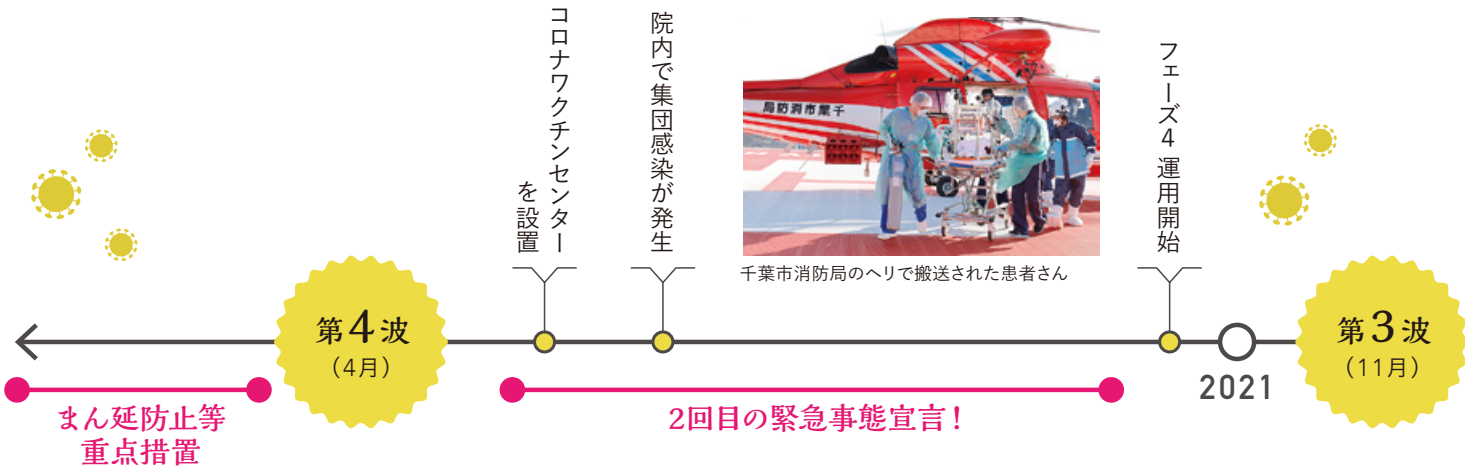
コロナワクチンセンターは、当院職員へのワクチン接種やワクチンの有効性・安全性に関する研究を推進するため、2021年2月1日に設置しました。3月15日より接種を開始しましたが、アナフィラキシーのような大きな副反応を起こすこともなく、接種を希望したすべての職員が無事に接種を終えています。今回の研究には、多くの職員が関心を寄せており、事前調査で2,000人以上が参加を希望しました。希望者より採取した血液と唾液から抗体価の評価やワクチンの効果・副反応、免疫応答などを調べ、日本人にとってのワクチンの有効性を詳しく検証します。



研究に協力して血液を採取する横手病院長(右)



コロナワクチンセンター内の研究エリア



コロナ重症患者さんへの救急対応

当院のICUでは、千葉県内の医療機関から人工呼吸器やECMO(体外循環を用いた生命維持装置)が必要なコロナ重症患者さんを受け入れています。第3波ピークの1月、救急やICU病床が逼迫し、未曾有の救急医療機能不全を経験しました。3月に入り、全国的に感染者数は減少傾向ですが、今後も大きな波の発生の可能性は存在します。助けるべき命が目の前にある時、適切な救命救急医療を提供できるよう一層取り組んでいきたいと思えます。



救急科
中田 孝明 教授



呼吸状態が悪化した患者さんに、腹臥位療法で、体の中の空気を循環させているところです。

感染拡大でコロナ以外の病棟では…

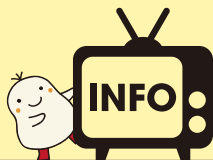
病棟編成で急遽、循環器内科の入院患者さんを受け入れることになり、「ケアの方法が違うのに大丈夫だろうか」と緊張が高まりました。でも「病院全体で助け合って乗り越えよう!」と話し合い準備に取りかかりました。すぐに循環器内科の医師や病棟スタッフが勉強会を開催してくれました。部署では抜けがないようチェックリストを作って仕事の流れを確認しながら業務にあたりました。その後救急科も受け入れることとなり、激務が続きますが、コロナ以外の病気で当院の治療を必要としている患者さんがたくさんいますので、一人でも多く受け入れられるよう、工夫をしながら日々奮闘しているところです。



一般病棟担当
大谷 真由美 師長



清拭をお手伝い



(左から)片山加奈子薬剤師、桑原聡教授、三澤園子准教授



難病治療に新たな光! サリドマイドを「クロウ・深瀬症候群」の治療薬として承認

クロウ・深瀬(POEMS)症候群は、末梢神経、胸腹水、浮腫、腎不全など多くの障害を及ぼす難病です。急速に進行、重症化することが多く、適切な治療を行わない場合の平均生存期間は33カ月とされる重篤な疾患です。治療法の確立が急がれていましたが、患者数が少ないため、治療薬開発は困難とされていました。その治療薬として2021年2月24日、サリドマイドが薬事承認されました。これにより、適切、かつ迅速な診断や治療が全国で可能となりました。

10年以上にわたり行ったサリドマイドの有効性を調べる研究で、遂に薬事承認されたことは、難病で苦しむ患者さんにとっても、治療の幅を広げることに繋がると思います。



「診断のついていない」患者さんが対象! 遠隔セカンドオピニオン外来

総合診療科では「診断のついていない症候や健康問題を有する患者さん」を対象とした診療を行っており、全国から患者さんを受け入れております。昨年度からはスマートフォンやパソコンを用いた遠隔セカンドオピニオン外来を開始しました。本外来では過去の診療情報を読み解くだけでなく、様々な角度から問診を行って原因の特定に取り組み、問題解決を図っていきます。遠方などの理由で来院できない患者さんは是非、千葉大学総合診療科ホームページをご覧ください、遠隔受診をご検討ください。



全国の書店で好評発売中
¥5,000(税込)



主演の吉永小百合さん(左)



薬学部の教科書にも採用されています「薬剤師のためのナレッジベース」

薬剤部の石井伊都子先生が「薬剤師のためのナレッジベース」を出版しました。代表的な55の疾患の薬物療法について薬剤師の視点からポイントを詳しく解説した実践本。薬剤師だけでなく研修医にもオススメの1冊です。外来診療棟1階のローソンでも発売中!



現役医師による小説を映画化した「いのちの停車場」に撮影協力!

吉永小百合さん、松坂桃李さん、広瀬すずさんらが出演されたことで話題の映画「いのちの停車場」の撮影が当院で行われました。5月21日(金)より公開中(一部地域は、順次公開)です。リハビリシーンでは、よりリアルな演出にするため、当院リハビリテーション部が監修しました。

どんな状況下でも 医療材料の安定調達で 現場をサポート

管理課医薬契約第2係
事務職員 **遠藤 若奈**

FACE

治療に欠かせない医療材料を常に安定して現場に提供できるように、調達を行っています。

Q. 主な仕事の内容は？

人工心臓から手術に使われる針や糸まで、医療材料の調達を行っています。医療材料が不足することのないよう、日々市場をチェックしたり、メーカーと交渉したりしながら、より安価に仕入れ、医療機器の更新など、必要なところに十分な資金を充てることできるように、努力しています。

Q. 最近仕事をしていて印象に残った出来事は？

1年ほど前、コロナの影響で当院でも様々な医療材料が不足しました。寄付を募ったり、メーカーと交渉したり、あらゆる手段で調達の努力をしている中で、医療従事者から、「調達を頑張ってくれているおかげで安心して診療に臨むことができています」と伝えられました。患者さんと直接接する機会が少ない業務ですが、間接的に皆さんのお役に立てていると感じ、うれしかったです。

Q. 患者さんに向けてメッセージを

患者さんがいつも通り適切な医療を受けられるよう、縁の下の力持ちとしてしっかり支えていきたいと思います！



新型コロナウイルスの拡大に伴い不足しがちなマスクやガウンなどの個人防護具の在庫を管理することも最近の業務のひとつです。

off shot

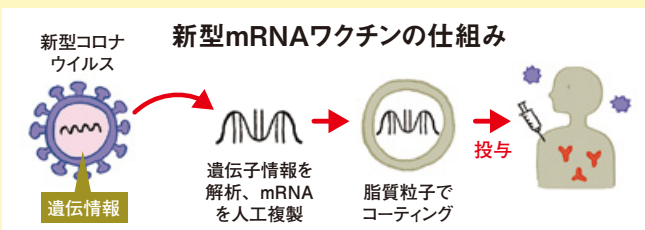
舞台やライブに行くのが好きです！地方公演のときは、その土地のグルメや観光も楽しみですね。今は配信で楽しんでいます。



新型コロナワクチンのおはなし①

ワクチンは、最も重要で効率的な手段です。

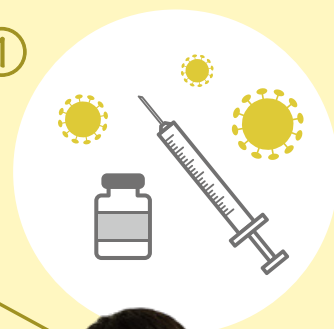
感染症にかかると、その原因となる病原体に対して免疫(抵抗力)ができます。免疫があると、感染症にかかりにくくなり、かかっても症状が軽くなります。ワクチン接種はこの仕組みを利用しています。日本で接種が始まったファイザー社の新型コロナウイルスワクチンは、mRNA(メッセージャー・アール・エヌ・イー)という新しいタイプのワクチンです。ウイルスの表面にあるたんぱく質の情報(mRNA)を投与し、免疫をつけておくことでウイルスが体に入ってきた際に免疫がウイルスを見つけて退治してくれます。



ワクチンの影響で感染することはありません。

心配しなくて大丈夫！

わたしが
お答えします
薬剤部
渡辺 健太



Special Thanks

ご寄附いただいた皆さまに
こころから感謝の気持ちをこめて



2020年10月～2021年3月までの時点で総額23,513,957円ものご寄附と多くの物資をいただきました。皆さまの温かいお気持ちは、診療や研究、教育の向上に活用させていただくとともに、現場の医療スタッフの大きな励みになっています。本当にありがとうございます。今後も大学病院に求められている高度急性期医療と新型コロナウイルス感染症対応を並行して継続していきますので、引き続きよろしく願いいたします。

プロヴァイオリニストの加藤玲名さんより
チャリティーコンサートで集まった収益金の一部を当院にご寄附いただきました。

個人

近藤 理恵 様
赤木 勝正 様
田村 邦雄 様
村川 理恵 様
杉本 義久 様
若林 奨 様
深尾 立 様
加藤 宏明 様
川瀬 康太 様

飛田 起一 様
太田 幸廣 様
黒田 学 様
川島 敦子 様
阪井 信子 様
安保 和子 様
後藤 辰男 様
吉野 茂明 様
紙谷 まゆみ 様
高石 一 様
山本 傑 様

松本 徳美 様
高橋 敬一 様
山田 雅敏 様
牛島 亜矢子 様
黒木 登志夫 様
岡田 忍 様
宮地 寛文 様
松島 高士 様
野地 有子 様
大川 壽一 様
加藤 玲名 様

法人等

ココロジック株式会社 様
社会福祉法人 ピスティスの会 様
医療法人社団 慈徳会 様
株式会社 筑紫 様
I&H株式会社 様
宮川電気通信工業株式会社 様

ご芳名は、2020年10月～2021年3月に一定金額のご寄附および公開のご承諾を
いただいた方をご寄附をいただいた順に掲載しています。
(クレジットの入金日などの関係で掲載が次号になる場合があります)

ご寄附のお申し込みはこちら

外来診療棟1階の簡易郵便局
に専用の払込取扱票（郵便
局用）があります。どうぞ利
用ください。



C over

放射線検査・治療のスペシャリスト
「診療放射線技師」

診療放射線技師は、医師や歯科医師の指示に基づいて放射線を使った検査や治療を行う放射線の専門家。X線撮影(レントゲン)やCT、核医学検査、放射線治療などのほか、放射線は使いませんが高磁場を用いたMRI検査も診療放射線技師の主な仕事です。現在設置工事中の「MRIニアック」という高精度放射線治療装置は、MRIでリアルタイムに臓器の位置や形を確認しながら放射線の照射ができるので、これまで以上に高精度な放射線治療ができるようになります。



放射線部 診療放射線技師
川上 裕也さん

M essage

院内での写真・動画の撮影は
ご遠慮ください

当院では、患者様や職員のプライバシー及び個人情報を保護するため、無断で撮影・録音することをご遠慮いただいています。必ず事前にご相談ください。

なお、診療説明の録音をご希望いただいた際は、トラブル防止のため、当院においても同じ条件で録音させていただきますので、ご了承ください。

皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

いのはな
Harmony

千葉大学病院広報誌「いのはなハーモニー」
第62号 2021年5月28日 発行

【発行】 千葉大学医学部附属病院 〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

TEL : 043-222-7171(代表)

Mail : byoin-koho@chiba-u.jp

URL : https://www.ho.chiba-u.ac.jp/

※バックナンバーはホームページでご覧いただけます

本誌に掲載されている内容の無断転載、転用及び複製等の行為はご遠慮ください。



千葉大学病院
ホームページ